

パレスチナの伝統を
伝えていきたい



パレスチナの伝統的な民族衣装には、
色鮮やかな刺繍が施されています。
母から子へ伝い継がれてきた刺繍の技術。
ガザのアトファルナろう学校では、刺繍を教文ながら
若い聴覚障がい者の生活を支えてきました。
空襲と砲撃の中、私たちはこの人たちの安否が確認できません。

刺しゅうする女性



「ぼくのだいじなアトファルナろう学校」

フセインくん(写真右上の少年)は、パレスチナ・ガ
ザ地区に住む聴覚がいのある男の子。ろう学校で覚え
た手話で話しているところです。「アトファルナに入
って、お使いにいけるようになったり、社会性が出て
きた」とお母さんはとても喜んでます。
アトファルナろう学校には、3歳から15歳の300人の
生徒が通っています。
攻撃が始まってからたくさんの子どもの安否が
わかりません。



アトファルナろう学校

日本中にガザのことを知らせよう!!



ミサイルが子どもの本の上を落ちてきた。
家の近くにオレシフの畑が有りました。
私は日イスラエルの兵士がそれを切り倒してしま
昨日で畑色のオレンジが落ちていたのだ。

アイシャ (12歳、アトファルナろう学校)

子どもの絵

絵葉書セット

「ガザのいのちを守りたい！」

5枚1組

ご寄付頂いた方でご希望の方に差し上げます。

あなたのメッセージをのせて、
ガザのことを日本に知らせましょう。

ガザの人、そして子どもたちが身近に感じられる写真や絵を集めました。

空爆前のガザの生活やアトファルナなど子どもたちの様子、
子どもの描いた絵などに、一言のメッセージが入っています。

あなたのメッセージをのせて

宛名面には「いま、あなたにもできること」一覧と
「私からのメッセージ」を書く一言欄があります。
あなたからのメッセージを加えて、
友人やお知り合いにガザのことを知らせてください。

ご寄付はこちらへ

郵便振替口座 00160-7-177367
パレスチナ子どものキャンペーン



平和な未来を作るのは子どもたち —ガザのナワールセンターで
生きる権利、守られる権利・・・遊ぶ権利、子どもには健やかに成長する権利があります。
ナワールとはアラビア語で「つぼみか花開くとき」
センター開設時に、子どもたちで話し合っって名前を決めました。
いま、爆撃の下で子どもたちは何を感しているのでしょうか。

ナワール子どもセンター

この海と生活を取り戻したい



ガザは地中海に面していて、海には古代の遺跡も眠っています。
漁業が盛んだった海は、いま軍艦が砲撃する場になっています。
人々の生命と生活を守るために、あなたもご協力ください。

ガザの海

ガザ地区へのイスラエル軍の攻撃
によって多くの市民が犠牲になって
います。特に子どもたちの犠牲が急
増し、死者・負傷者の3分の1が
子どもたちです。

パレスチナ子どものキャンペーン
は、ガザで以下のような子ども支援
を続けてきました。

アトファルナろう学校

1992年にガザで初めてのろう学校
を地元のNGOと一緒に開校しまし
た。3歳から15歳の300人の生徒、
職業訓練によって自立を目指す若
いろう者70人と多くのスタッフがい
ます。現在その多くと連絡が途絶え
ています。逃げ場のないガザで、聴
覚障がいのある子どもたちの安否が
心配です。校舎にも被害が出ていま

ナワール子どもセンター

2006年にガザ南部のハンユニス
で開設した子ども参加型の児童館。
「子どもには遊ぶ権利がある。遊び
ながら成長する」という理念を掲
げて、さまざまな活動をしています。
この地域にも攻撃が強まっていて、
この施設を利用している400人以上
の子どもの安否も不明です。